

<会議録>

平成 23 年度 第 1 回 生駒市防災会議

1 日 時 平成 23 年 10 月 24 日(月) 午後 1 時 30 分～

2 場 所 生駒市役所 4 階 大会議室

3 出席者

(委 員) 片尾委員(京都大学防災研究所准教授)、松波委員(京都大学防災研究所准教授)、山下委員(生駒市長)、小紫委員(生駒市副市長)、井上委員(生駒市議会議長)、下村委員(生駒市議会企画総務委員会委員長)、西川代理委員(奈良県郡山土木事務所)、山田委員(奈良県郡山保健所所長)、蜂谷委員(奈良県警生駒警察署署長)、山村委員(生駒市消防団団長)、石本代理委員(郵便事業株式会社生駒支店)、榎本代理委員(西日本電信電話株式会社奈良支店設備部災害対策室)、山田代理委員(大阪ガス株式会社導管事業部北東導管部緊急保安チーム)、高瀬委員(関西電力株式会社奈良営業所所長)、杉野委員(近畿日本鉄道株式会社生駒駅駅長)、奥村委員(奈良交通株式会社北大和営業所所長)、大井代理委員(北倭土地改良区)、久保委員(生駒商工会議所会頭)、井山委員(生駒市自治連合会副会長)、室井委員(生駒市民生委員・児童委員連合会会長)、橋本代理委員(生駒市建設業協会)、出垣委員(生駒市地域婦人団体連絡協議会会長)、永野委員(日本赤十字社奈良県支部生駒市地区奉仕団地区委員長)、早川委員(教育長)、藤田委員(消防長)、中田委員(市長公室長)、今井委員(企画財政部長)、新谷委員(市民部長)、池田委員(福祉健康部長)、奥谷委員(生活環境部長)、松本委員(建設部長)

(事務局) 細川(危機管理課長)、米田(危機管理課主幹)、辻中(事業計画課長)、寺西(土木課長)、木村(消防本部警防課長)、増田(事業計画課長補佐)、西田(消防本部警防課長補佐)、清水(福祉支援課課長補佐)、小林(危機管理課係長)、山田(事業計画課事業計画係主査)、柴田(危機管理課主任)

4 欠席者 梅川委員(生駒市医師会会長)、古川委員(水道局長)

5 議事内容

市長挨拶

東日本大震災、台風 12 号では我々の予想を超える災害が発生しました。先日、五條市を訪れ 2 時間ほど市長の話を聞きました。崩れた土砂が川を越え対岸の高いところまで届いていま

した。我々の予想がいかにあてにならないかを感じました。いざ災害が起きた時ベストな対応が取れるかどうか。災害対応だけは予想がつかないことを改めて実感しました。今回は生駒市防災計画、水防計画の改定です。このような分厚い計画も必要だが、いざという時にこれを全部練っている暇はありません。いざというときに判断できる体制を考えておく、もっと簡便なマニュアルを整備しておく必要もあると、今回大きな2つの災害を通して感じました。今日は後ほど京都大学防災研究所の松波先生のお話もお聞きできます。委員の皆様もこの機会を利用し、それぞれの立場で災害対策に役立てていただければ幸いです。

委員紹介

議案審議

(1) 報告案件：生駒市地域防災計画の修正

(説明：危機管理課長、資料：生駒市地域防災計画新旧対照表)

本年度の修正箇所は、災害時要援護者支援に関するもので、その他のものは軽易なものとなっています。

1～5 ページは、災害時要援護者に対する支援の強化について、昨年9月に生駒市災害時要援護者避難支援プランを策定。これを防災計画に反映させるための修正です。なお、この災害時要援護者避難支援プランの内容については、35～54 ページに掲載しています。災害時要援護者避難支援プランは、全体の枠組みを定めた全体計画と、要援護者の支援方法を個別に定めた個別計画で構成されています。昨年、全体計画が策定されたところで、個別プランについてはモデル地区を設定し作業を進めているところです。

22～29 ページについては、災害時の応援協定に関する修正です。22～25 ページは、今年の5月に生駒市医師会との災害時の医療救護に関する協定を見直したことによる修正です。26～29 ページは、今年の9月に奈良県電気工事工業組合と新たに協定を締結したので追加したものです。

あとは文言、数値、組織、代表者氏名等の変更など、軽易な変更です。

(2) 報告案件：生駒市水防計画の修正

(説明：事業計画課長、資料：平成23年度生駒市水防計画修正(案)新旧対照表)

人事異動、代表者等氏名の変更等、軽易な変更です。

その他

・事務局からの連絡事項

(説明：危機管理課長、資料：防災関係年間業務表)

平成23年度防災関係の年間行事を説明します。

3月の東日本大震災、9月の台風12号の被災地へは物資支援、人的派遣を行いました。

5月16日、生駒市医師会と「災害時の医療救護に関する協定」を改定し締結。

6月には、東日本大震災被災地の写真展を開催。また、新規採用職員を対象にした土嚢作り研

修を開催し、1,000個余りの土嚢を作成しました。

7月には被災地へ派遣した職員が生徒を対象に報告会を開催。派遣職員の報告は、8月の市民防災セミナーでも行いました。

8月にははんどどこまつりに出店し、被災地の写真展示や非常食の試食を行いました。また市民防災セミナーを開催しました。さらに、消防署、消防団、自主防災会の合同訓練を実施しました。

9月1日の防災の日には、奈良県電気工事工業組合と災害時の電気設備の応急復旧に関する協定を締結しました。また、防災グッズの展示を市役所ロビーで行った。

10月には、エリアメールを導入。10月22日には生駒東小学校にて東地区自治連合会と合同で防災訓練を実施しました。本日、防災会議の開催です。

11月には防災コンテナを2か所設置予定。北地区での防災訓練を11月20日に生駒北中学校にて開催予定です。また、県との共同開催で、緑ヶ丘・西菜畑地区において土砂災害避難訓練を27日に緑ヶ丘中学校において開催します。

来年1月には、防災とボランティア週間に防災グッズの展示を予定しています。その他に自治会や自主防災会での講座については随時実施しています。

防災協定については市民生活協同組合ならコープと災害時の物資供給に関する協定を締結する方向で進めています。また、避難所の収容人数の見直し作業を進めています。また、災害時要援護者避難支援プランが策定されたので、福祉避難所を確保するために市内の福祉施設と協定を結ぶ作業をしています。

これからの取り組みとしては、県の地域防災計画の見直しに伴い、その整合性を図るため市の地域防災計画の見直しを考えています。地震防災対策アクションプログラムの進行管理、見直しを進めていきます。そして災害発生時の初動体制の構築のためのマニュアルの整備を進めていきます。来年度は市民との協働による参加型総合防災訓練を考えています。

今年度の国民保護協議会は審議案件がありませんので開催しません。

・質疑

久保委員：昨年も質問したが、高山ため池がもし決壊したら、対応は？避難先は？このあたりの検討をやっていただいたかどうか。切実な問題なので、中学校、小学校あたりは水の底に沈んでしまう。富雄川流域に住んでいる者にとっては本当に心配です。

市長：一般の生駒市議会の一般質問でも同じ質問がありました。

新谷委員：先日の市議会でも質問がありました。高山ため池は平成7年の阪神大震災の折に県が調査を行い、アーチ型の土の堰堤になっていますが、中に強固な構造物があり、北倭土地改良区で草刈りや見回りをし、補修も市と協力して行っているため、高山ため池については大丈夫となっています。

大井代理委員：阪神淡路大震災を受けて県で調査した記録は残っています。問題ないとなっています。想定している地震に対しては安全だとなっています。老朽化や劣化はありません。

久保委員：想定外といっても起こりうる。もし万が一決壊したら、どの程度まで被害が出るのか。どこへ逃げればいいのか。大丈夫は誰が保証してくれるのか。せめて決壊したらどの程度の被害が出るのか。その場合の避難場所を何箇所か指定してほしい。

市長：貴重な意見なので、いったん引き取らせていただき、検証させていただきたいと思います。よろしいですね。

事務局：はい。

井上委員：先週、下村委員と一緒に陸前高田市へ行きました。実際担当課で今までのマニュアルが間に合ったのかと聞くと、何も役に立たなかったと。マニュアルそのものがどこかへ行ってしまった。対応する職員も亡くなった方がいる。マニュアル自体が何の役にも立たなかった。市長が言ったように、頭に入り得るマニュアルを作らなければならないと、全く同感なのですが、これは一つの要望として是非、担当課あるいは関係課は現地が落ち着き受け入れをしてくれるときに現地へ行き、そういった話を聞いたうえでマニュアル作りをしてほしいと思います。それと、書面でいくらあっても頭に入っていない。やはり訓練をし、それぞれが役割を身につけることが重要だとおっしゃっていたので、そういうことも参考にさせていただきたいと思います。

市長：貴重な意見ありがとうございます。簡便なマニュアルの作成もそうですし、マニュアルがなくても臨機応変にその状況に応じてベストな判断ができるように我々市職員も今日ご参集の皆様方も日頃からいざというときは何をどうすると考えておくことが欠かせないのではないかと思います。今回の震災では各責任者の判断が生死を分けたことも報告されています。特に子どもを預かる学校長も、その辺のことを十分対応しなければならないと思いました。議会の方でも被災地へ行かれたとのことですが、実は私も明日から部長二人と課長一人を連れていきますので、その視察の結果も参考にいたしまして取り組んでまいりたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

・松波委員の講演「大規模地震から学ぶ ～生駒市について考える～」

——略——